



Title	西フリジア語の文法構造：前置詞と後置詞（2）
Author(s)	清水，誠
Citation	北海道大學文學部紀要，46(2)，41-64
Issue Date	1998-01-16
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33697
Type	departmental bulletin paper
File Information	46(2)_PL41-64.pdf



西フリジア語の文法構造——前置詞と後置詞(2)——

清水 誠

Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk

— ferhâldingswurd (2) —

(*The Annual Report on Cultural Science* 46-2 (No.92). The Faculty of Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan 1997. ISSN 0437-6668)

SHIMIZU Makoto

§ 62 後置詞 (de postposysje) I 一名詞句を支配するもの

(1) はじめに

西フリジア語は後置詞が比較的豊富であり、前置詞と語形が共通のものが多。後置詞は名詞句を支配するものと前置詞句を支配するもの (§ 63) に分かれる。この章では名詞句を支配する後置詞を扱う。

伝統的には後置詞を認めず、副詞として扱っていることがある。たとえば次の用例の yn 「…の中へ (方向)」がそうである。

De trein rydt de tunnel yn. 「列車はトンネルの中へ入る」

しかし、de tunnel yn 「トンネルの中へ」は前域 (主文の定動詞の直前) を占めるひとつの文成分としてはたらく。

De tunnel yn rydt de trein. 「トンネルの中へ列車は入っていく」

本書では上例の de tunnel yn 「トンネルの中へ」を後置詞 yn に支配された後置詞句と認める立場をとる。

後置詞は分離動詞の前つづりとまぎらわしい場合がある。たとえば、上記

の用例は名詞句を前域に置いて後置詞を文末に残留させることができる。

De tunnel rydt de trein yn. 「同上」

この例は「代名詞の *der*」による前置詞の残留 (§ 61 (5)) の場合と同様に、「再分析」によって後置詞 *yn* と動詞 *rydt* が *rydt...yn* 「…の中に入る」という意味の新しい動詞を形成しており、*yn* は分離動詞 *ynride* 「同左」の前綴のようになっているとも言える。じじつ、辞書には *ynride* 「…の中に乗り物で入る」(例. *de garaazje ynride* 「(車が/車で) ガレージの中に入る」という分離動詞が記載されている (Zantema 1984 : 444)。

- ☞ 西フリジア語はドイツ語やオランダ語と同様に基本語順として動詞が文末に来る言語である。一般に「名詞句 + X + 動詞」において、X は前後に隣接する名詞句とも動詞とも結びつく可能性がある。歴史的に X はもともと副詞だったと言えるが、「名詞句 + X」の結びつきが強ければ X は後置詞になり、「X + 動詞」の結びつきが強ければ X は分離動詞の前綴りになる。西フリジア語やオランダ語では「名詞句 + X」の結びつきが強い場合が多かったために、歴史的に広く後置詞が発達した。一方、ドイツ語では「X + 動詞」の結びつきが強まったために X は分離動詞の前綴りと解釈されるようになり、後置詞が未発達で種類が限られている。しかし、今日では西フリジア語やオランダ語でも「X + 動詞」の強い結びつきが見られることがあり、「再分析」によって新たな動詞を形成するようにして後置詞の残留が起こる。

一方、「X + 名詞句 + 動詞」では X は隣接する名詞としか結びつかず、つねに前置詞として機能する。しかし、「代名詞の *der*」(一般に「*r*-代名詞」) による前置詞の残留 (§ 61 (5)) では、「{*f. der* / *o. er* / *d. da(r)*} + X + 動詞」という語順になるために、X は前後に隣接する「*f. der* / *o. er* / *d. da(r)*」とも動詞とも結びつく可能性がある。西フリジア語やオランダ語では「X + 動詞」の結びつきが強まることもあり、「再分析」によって前置詞の残留が可能であるのにたいして、(標準)ドイツ語では本来の「*da(r)* + X」の結びつきが強く、「再分析」が起こらず、前置詞の残留は不可能である。このように、西フリジア語とオランダ語が(標準)ドイツ語と相違する点は、歴史的に形成された本来の構造を守るか、「再分析」によって別の構造を形成するかにあると言える。

(2) 前置詞との意味の相違

(a) まとめ

名詞句を支配する後置詞は一般に動作の「方向」(*de rjochting*)を表わす。状態の継続を表わす場合には、その状態がある時点まで継続して完結することを含意する(例. *de winter út* 「冬の間ずっと、冬の終わりまで」)。

一方、対応する前置詞も動作の方向を表わすことがあるが、後置詞と比較して次のような意味の差が認められる。後置詞による表現は動作を全体的にとらえ、その達成を表わす。つまり「完了 (*perfektyf*) アスペクト」を表現する。一方、語形的に対応する前置詞による表現は動作を部分的にとらえ、その経過を表わす。つまり「未完了 (*imperfektyf*) アスペクト」を表現する。このように、両者の意味の違いはアスペクト (*it aspekt*) の区別に基づく。

前置詞はまた、動作が行なわれる一定の静止した「場所」(*it plak*) や状態の継続も表わす。このときの状態の継続は後置詞の場合とちがって、ある時点までの完結を含味しない(例. *yn 'e winter* 「冬に、冬の間」)。これも上記のアスペクトの区別に対応している。

前置詞句と後置詞句は、ともに方向の意味の場合には動詞の補足成分としてはたらくが、前置詞が場所や時間を意味する場合には、*wenje* 「住む」、*duorje* 「続く」のような例を除いて付加成分としてはたらくことが多い。

(b) 前置詞：動作の方向/経過 ⇔ 後置詞：動作の方向/達成

両者の意味の相違は次の用例から明らかである。

① 前置詞：動作の方向/経過

De trein sil gau troch de tunnel ride. 「列車はもうすぐトンネルを通過するだろう」

De trein ried troch de tunnel en kaam der noch net út. 「列車はトンネルを通過しており、まだ出てきていなかった」

② 後置詞：動作の方向/達成

De trein sil gau de tunnel troch ride. 「列車はもうすぐトンネルを通り抜けるだろう」

?*De trein ried de tunnel troch en kaam der noch net út.* 「列車はトン

ネルを通過しており、まだ出てきていなかった」

以下の用例についても同様である。

- ③ 前置詞 *Se geane yn 'e tún.* 「彼らは庭の中へ入っていく」

後置詞 *Se geane de tún yn.* 「彼らは庭の中に入る」

☞ 前置詞 *yn* には方向 (…の中へ) と場所 (…の中で) の両方の意味があるが (§ 60 (2)(i)), 上記の用例は「*彼らは庭の中を歩く」(場所) という意味にはならない。これは *gean* 「行く」という動詞の意味的な性質による ((c) の *rinne* 「歩く」による表現を参照)。次の用例を参照。

By in pealtsje komt er by de wâl op en giet yn 'e hûs. 「柱のところで彼は扉をのぼって自分の家の中に入る」(ULI'S, B 5 : 9)

- ④ 前置詞 *Se geane út 'e tún.* 「彼らは庭の外へ出ていく」

後置詞 *Se geane de tún út.* 「彼らは庭の外に出る」

- ⑤ 前置詞 *Se rinne om 'e tún.* 「彼らは庭のまわりを歩く」

後置詞 *Se rinne de tún om.* 「彼らは庭のまわりを歩いて一周する」

- ⑥ 前置詞 *Se rinne troch de tún.* 「彼らは庭の中を通過して歩いていく」

後置詞 *Se rinne de tún troch.* 「彼らは庭を歩いて通りぬける」

- ⑦ 前置詞 *Se rinne út 'e tún.* 「彼らは庭の外へ歩いていく」

後置詞 *Se rinne de tún út.* 「彼らは庭の外に歩いて出る」

☞ 前置詞 *yn* と違って、前置詞 *út* には方向 (…の外へ) の意味しかなく、上記の文は「*庭の外を歩く」(場所) という意味にはならない。場所 (…の外で) の意味には前置詞 *bûten* (§ 60 (2)(e)) を用いる ((d))。

Se rinne bûten de tún. 「彼らは庭の外を歩く」

bûten をもつばら方向を意味する *gean* に用いると不自然になる。

?*Se geane bûten de tún.* 「彼らは庭の外に行く」

- (c) 前置詞：動作の場所, 方向/経過 ⇔ 後置詞：動作の方向/達成

次の用例はひとつの前置詞が動作の行なわれる場所と方向をともに表わす場合である。

- ① 前置詞：動作の場所, 方向/経過

Se rinne yn 'e tún. 「彼らは {庭の中を歩く/庭の中へ歩いていく}」

☞ 前置詞 *yn* には「方向」(…の中へ) と「場所」(…の中で) の両方の意味があり、上記の文は「場所」の解釈がふつうであるものの、どちらの意味

にもなりうる。これは rinne 「歩く」という動詞の意味的な性質による。
(b)③のように gean 「行く」とともに用いた前置詞 yn は「方向」の意味にしかならないことに注意。

- ☞ もっぱら「場所」(…の中で)を意味する前置詞には binnen (§ 60 (2)(c)) がある。しかし、場所の意味では út 「…の外へ (方向)」と競合しない būten 「…の外で (場所)」とちがって、yn 「…の中で (場所), …の中へ (方向)」と競合する binnen は公的な領域や外界を遮断するものの内側という意味に限られている。したがって、?binnen de tún 「庭の中で」は不自然である。次の表現なら許される。

Se rinne binnen it stek. 「彼らは垣根の内側を歩く」

② 後置詞：動作の方向/達成

⇔ Se rinne de tún yn. 「彼らは庭の中へ歩いて入る」

De tún yn rinne se. 「庭の中へ彼らは歩いて入る」

- ☞ 上記の事実はオランダ語も同様。

オ. Ze gaan in de tuin. 「彼らは庭の中へ入っていく」(前置詞：方向/経過)

Ze lopen in de tuin. 「彼らは {庭の中を歩く/庭の中へ歩いていく}」
(前置詞：場所, 方向/経過)

Ze lopen de tuin in. 「彼らは庭の中に歩いて入る」(後置詞：方向/達成)

Ze gaan de tuin in. 「彼らは庭の中に入る」(後置詞：方向/達成)

Ze lopen uit de tuin. 「彼らは庭の外へ歩いて出ていく」(前置詞：方向/経過)

Ze lopen de tuin uit. 「彼らは庭の外に歩いて出る」(後置詞：方向/達成)

Ze lopen buiten de tuin. 「彼らは庭の外を歩く」(前置詞：場所)

?Ze gaan buiten de tuin. 「彼らは庭の外に行く」(前置詞：場所)

Ze lopen binnen het hek. 「彼らは垣根の内側を歩く」(前置詞：場所)

(d) 前置詞：場所 ⇔ 後置詞：*場所

後置詞はもっぱら方向を表わすので、場所の意味に用いることはできない。

Se steane {yn 'e tún/*de tún yn}. 「彼らは庭の中に立っている」

Se steane {om 'e tún/*de tún om}. 「彼ら庭のまわりに立っている」

(om de tún hinne のほうが自然)

Se steane {*troch de tún/*de tún troch*}. 「彼らは庭の中のそこらじゅうに散らばって立っている」(「1 列に並んで端から端まで立っている」という意味ではない)

前置詞および後置詞の *tút* にはともに「方向」(…の外へ)の意味しかなく、次の文は誤りである。

Se steane {**út 'e tún/*de tún út*}. 「彼らは庭の外に立っている」

☞ 「場所」(…の外に)の意味には前置詞 *bûten* (§ 60 (2)(e)) を用いる ((b) ⑦)。

Se steane *bûten de tún*. 「彼らは庭の外に立っている」

☞ オランダ語も同様。

オ. Ze staan {*in de tuin/*de tuin in*}. 「同上」

Ze staan {*om de tuin/*de tuin om*}. 「同上」

Ze staan {*door de tuin/*de tuin door*}. 「同上」

Ze staan {**uit de tuin/*de tuin uit*}. 「同上」

Ze staan *buiten de tuin*. 「同上」

(3) 前置詞との語形の相違

(a) 場所を示す前置詞

場所を示すすべての前置詞について、語形的に対応する方向を示す後置詞があるわけではない。

Se rinne *foar de tún*. 「彼らは庭の前を歩く」

*Se rinne *de tún foar*. 「彼らは庭の前へ歩く」

☞ 「…の前へ」(方向)の意味には次の表現を用いる。

Se rinne *nei de foarkant fan 'e tún (ta)*. 「彼らは庭の前 (=正面) へ歩いていく」

(b) 時間を示す前置詞

時間を示す前置詞には語形的に対応する後置詞がない場合が多い。

Se binne {*yn 1945/*1945 yn*} berne. 「彼らは 1945 年に生まれた」

Se komme {*om acht oere/*acht oere om*}. 「彼らは 8 時に来る」

(4) 前置詞との用法の相違

(a) 前置詞：「代名詞の der」⇔ 後置詞：dit, dat, wat

§ 61 (6)(a)で述べたように、代名詞による残留にかんして、前置詞では物事を示す代名詞など、「代名詞の der」とそれ以外の代名詞の両方が文法上可能な場合、前者が一般的である。一方、後置詞ではもっぱら後者を用い、しかも指示代名詞中性単数形 dit, dat と疑問代名詞 wat にほぼ限られる。この場合の代名詞の意味は dit 「この方向・方角へ」、dat 「{あの/その} 方向・方角へ」、wat 「どの方向・方角へ」であり、特定の名詞句を受ける機能はない。つまり、次の用例では dat は it bosk を受けるという解釈にはならない。

Wy rûnen it bosk yn. 「私たちは森の中に歩いて入った」

Wy rûnen dat yn. 「私たちはその方角に歩いて中に入った」

Dat rûnen wy yn. 「その方角に私たちは歩いて中に入った」

辞書にも dat {op/út} 「その方角・方向に」という固定した表現が記載されている (Zantema 1984 : 156)。このように、後置詞が代名詞を伴う場合には制限が強い。一般に ‘代名詞(…){前置詞/後置詞}’ という語順では、「代名詞の der」などの ‘r-代名詞」以外の代名詞を用いることは少ないと言える。

① 前置詞 (§ 61 (6)(a))

{*Dêr*/?*Dat*} hawwe wy gjin noed fan. 「それについては私たちは心配していません」 (Hoekstra 1995 : 101 変更)

{*Wêr*/?*Wat*} wachtsje jo op ? 「あなたは何を待っているのですか」 (ib. 101 変更)

② 後置詞

Hja rûn dat {*út*/*del*/*lâns*/*om*} . 「彼女は {その方角に歩いて外に出た/その方角に{沿って/下って}歩いていった/その方角に沿って歩いていった/その方角に歩いて回った}」 (ib. 115 変更)

Wat rûn se út? 「彼女はどの方角に歩いて出ていったのだろう」 (ib. 115 変更)

(b) 「話題化」と「かきまぜ」

後置詞句では名詞句だけを取りだして前域に置く「話題化」も可能であり、

中域の前寄りの位置に置く「かきませ」も同様に可能である。名詞句による前置詞の残留との相違に注意 (§ 61 (6)(a))。

De tunnel troch sil de trein gau ride. 「トンネルをもうすぐ列車は通りぬけるだろう」

→ *De tunnel sil de trein gau troch ride.* 「同上」

De trein sil de tunnel gau troch ride. 「列車はトンネルをもうすぐ通りぬけるだろう」

De auto is al de berch op riden. 「車はもう山の上にのぼった」

→ *De berch is de auto al op riden.* 「山の上に車はもうのぼった」

De auto is de berch al op riden. 「車はもう山の上にのぼった」

その他の用例。

Pluk hie in lyts read takelautootsje. Hy ried der de hiele stêd mei troch en socht om in hûs om yn te wenjen. 「プルクは小さな赤いクレーン車をもっていました。彼はそれに乗って町中を走り、住む家を探しました」(Annie M.G. Schmidt: “Pluk fan de Petteflet” 7)

Dat sil myn tiid wol út duorje. 「それは私が生きている間は変わらないだろう (=続くだろう)」(Zantema 1984: 1128)

(c) 前置詞句からの分離と後置詞句からの分離

(b)の事実から、前域に名詞句のある次の文は、前置詞句からの分離か後置詞句からの分離かあいまいであることになる。この場合、アクセントを置く語(大文字で示す)を変えることであいまいさが解消される。

① 前置詞

Dizze tún RINNE se yn. 「{この庭の中を彼らは歩く/この庭の中へ彼らは歩いていく}」(rinne にアクセントを置く)

Hokker tún RINNE se yn? 「{彼らはどの庭の中を歩くのだろう/彼らはどの庭の中へ歩いていくのだろう}」(同上)

② 後置詞

Dizze tún rinne se YN. 「この庭の中に彼らは歩いて入る」(yn にアクセントを置く)

Hokker tún rinne se YN? 「彼らはどの庭の中に歩いて入るのだろう」
(同上)

(5) 語形と用例

名詞句を支配する後置詞のおもな語形とその用例を記す。

- (a) del [dɛl] 「…に沿って, …を下って」

Hy rûn *de dyk del*. 「彼は道に沿って歩いていった」 (ULFS, A18 : 12)

De frou komt *de finne del*. 「その女性は牧草地に沿ってこちらに来る」
(Zantema 1984 : 165 変更)

- (b) yn [in] 「…の中へ」

Heit kaam *de keamer yn*. 「父が部屋の中に入ってきた」 (ULFS, A 3 : 27 変更)

- (c) lâns [lɔːns] 「…に沿って, …を通じて」

Hy gong *de wei lâns*. 「彼は道に沿って行った」 (Visser 1985 : 385 変更)

syn hiele libben lâns 「彼の一生を通じて」 (ib. 157)

it hiele jier lâns 「一年中」 (ib. 157)

☞ (g) troch を用いて syn hiele libben troch 「同上」, it hiele jier troch 「同上」とも言える (ib. 157)。

- (d) oer [uər] 「…の上を, …を覆って」

It nijs gong *hiele Fryslân oer*. 「そのニュースはフリースラント中に伝わった」 (Zantema 1984 : 679 変更)

- (e) om [om] 「…のまわりをめぐる」

Hy rûn {*de/it*} *bosk om*. 「彼は森のまわりを歩いて一周した」 (Hoekstra 1995 : 115 変更)

- (f) op [op] 「…の上のほうへ, …に沿って (ある一定の水平の方向へ)」

Der komt troch *de tijstream in bulte Rynwetter it Waad op*. 「潮の流れによって大量のライン川の水がヴァート地帯 (オランダ北部海岸沿いの干潟地帯) に入ってくる」 (ULFS, B 9 : 7 変更)

Hja gong *de keamer op en del*. 「彼女は部屋の中を行ったり来たりした」 (Zantema 1984 : 165)

dat op 「その方角へ」 (Zantema 1984 : 715)

dat op nei Snits 「スニツ (オ. Sneek スネーク) の方角へ」 (ib. 715)

(g) troch [trox] 「…を通りぬけて」

De bus rydt *de tunnel troch*. 「バスはトンネルを通りぬける」 (ULP'S, A 18 : 12 変更)

Hiele Fryslân troch wie it sterk iis. 「フリースラント全土にわたって厚い氷が張った」 (Zanema 1984 : 1076)

de hiele jûn troch 「一晩中」 (Visser 1985 : 157)

☞ (h) út を用いて de hiele jûn út 「同上」とも言う (ib. 157)

it hiele jier troch 「一年中」 (ib. 157)

syn hiele libben troch 「彼の人生を通じて」 (ib. 157)

☞ (c) lâns を用いて it hiele jier lâns 「同上」, syn hiele libben lâns 「同上」とも言える (ib. 157)。

(h) út [yt] 「…の外へ, …の終わりまで」

Ut Ljouwert wei kin men mei de trein *fjouwer kanten út* komme.

「リャウエトからは列車で四方に行くことができる」 (ULP'S, C 18 : 7)

dat út 「その方角へ」 (Zantema 1984 : 715)

Wy koene bêst wat lytser wenje, no't de bern *de hûs út* binne. 「もう子供たちも家を出たのですから, 私たちももっと小さな家に住んでもいいんじゃないかしら」 (Bangma 1993² : 64)

☞ it hûs 「家」は中性名詞だが, de hûs út 「自分の家の外に」のように定冠詞として今日では両性形を用いていることについては§ 26 (3)参照。詳細は Hoekstra/Visser (1996)。

Ik bliuw yn Grins *de winter út*. 「私はフローニンゲン (オ. Groningen) で冬を越します (=冬の終わりまでいます)」 (Zantema 1984 : 1128 変更)

de hiele jûn út 「一晩中」 (Visser 1985 : 157)

☞ (g) troch を用いて *de hiele jûn troch* 「同上」とも言う (ib. 157)。

§ 63 後置詞 II — 前置詞句を支配するもの

(1) はじめに

前置詞句を支配する後置詞とはたとえば次のようなものである。

① 後置詞: [[*tusken...*] *yn*] 「…の間へ」

It famke kuiere tusken heit en mem yn. 「その女の子は父親と母親の間に入りこんだ」 (ULI'S, A 18:15 変更)

→ *Tusken heit en mem yn kuiere it famke.* 「父親と母親の間にその女の子は入りこんだ」

前置詞句を支配する後置詞は分離動詞の前つづりとまぎらわしい場合がある。たとえば、上記の用例では前置詞句とそれを支配する後置詞を前域に置くことができるので、*yn* は後置詞である。

これにたいして、次の用例では前置詞句とそれを支配する後置詞を前域に置くことができないので、*foar* は分離動詞の前綴りである。

② 分離動詞の前綴り: *foar-* (*foarkomme* 「現われる」)

De barchjeblom komt gauris tusken de reiden foar. 「黄色いアイリスの花がもうすぐ葦の間から顔を出す」 (ULI'S, C 11:9)

→ **Tusken de reiden foar komt de barchjeblom gauris.* 「葦の間から黄色いアイリスの花がもうすぐ顔を出す」

☞ たとえば「…の後ろから」、「…の下から」は前置詞句を支配する後置詞を用いて次のように表現する。

{*after/achter*} *de beam wei* 「木の後ろから」

ûnder de sofa wei 「ソファの下から」

オランダ語や英語では前置詞句を支配する前置詞を用いて次のように言う。

オ. *van achter de boom* 「同上」

van onder de sofa 「同上」

エ. *from behind the tree* 「同上」

from under the sofa 「同上」

ドイツ語では西フリジア語と似た形式を用いるが、次の用例の *hervor* は

副詞として扱われていることが多い。

ド. *hinter dem Baum hervor* 「同上」

unter dem Sofa hervor 「同上」

(2) 名詞句を支配する前置詞との語形的な関係

(a) 前置詞句のほかに名詞句も支配する後置詞

前置詞句を支配する後置詞のほとんどは名詞句を支配する後置詞としてもはたらく。

- ① $[[ta\dots] \acute{u}t]$ 「…の終わりまで」 $\Leftrightarrow$ $[...\acute{u}t]$ 「同左」

ta de lette jûn út 「夜遅くまで」 (Zantema 1984 : 1128)

$\Leftrightarrow$ *de lette jûn út* 「同上」 (ib. 1128)

- ② $[[by\dots] del]$ 「…に沿って, …の下へ」 $\Leftrightarrow$ $[...del]$ 「同左」

De wein rekke by de dyk del. 「車は道から水路に落ちた」 (Zantema 1984 : 165)

Ik kom jûn wol eefkes by dy del. 「私は今晚, ちょっと君のところに寄ります」 (Bangma 1993² : 22 変更)

$\Leftrightarrow$ *Hja rûn de dyk del.* 「彼女は道に沿って歩いていった」 (ULI'S, A 18 : 12 変更)

- ③ $[[op\dots] yn]$ 「…の中へ」 $\Leftrightarrow$ $[...yn]$ 「同左」

It giet op 'e stêd yn. 「これから町の中に入っていきます」 (Zantema 1984 : 435)

$\Leftrightarrow$ *Ik rûn {de/it} bosk yn.* 「私は森の中へ歩いて入った」

- (b) *hinne* $[h\acute{ɪ}nə]$ 「…へ」と *wei* $[vai, vei]$ 「…から」 (§ 50 (1)(b))

hinne 「…へ」と *wei* 「…から」は *nei...ta* 「…へ」と *út...wei* 「…から」と同じ意味である。*nei...ta* と *út...wei* は中間に何もはさまずに隣接して **...nei ta*, **...út wei* のように用いることはできない。この場合には *hinne* と *wei* で代用する。

- ① $[[nei\dots] ta]$ 「…へ」 $\Leftrightarrow$ $[...hinne]$ 「同左」

Ik ha nei de útstalling ta west. 「私はその展覧会に行った」 (Hoekstra

1995 : 97 変更)

→ Ik ha *der* {**nei ta/hinne*} west. 「私はそこに行った」 (ib. 96 変更)
Dy útstalling ha ik {**nei ta/hinne*} west. 「その展覧会に私は行った」 (ib. 97 変更)

② [[*út...*] *wei*] 「…から」 ⇔ [...*wei*] 「同左」

Dizze flechtlingen komme út Somaalje wei. 「この亡命者たちはソマリアから来ている」 (ib. 98 変更)

→ *Dizze flechtlingen komme der* {**út wei/wei*}. 「この亡命者たちはそこから来ている」 (ib. 98 変更)

Hokker lân komme dizze flechtlingen {**út wei/wei*}? 「この亡命者たちはどの国から来ているのだろうか」 (ib. 98 変更)

☞ ドイツ語の ‘nach 「…へ」+無冠詞の地名’ と *dahin*, *dorthin* 「そこへ」の使い分けにも類似点がある。

ド. *Morgen fliegt er nach Sapporo*. 「明日、彼は札幌へ飛びたつ」

→ *Morgen fliegt er* {**danach/dahin/dorthin*}. 「彼は明日そこへ飛びたつ」

オランダ語では {*daar/waar*} (...)naartoe 「{そこへ/どこへ}」, {*daar/waar*} (...)heen 「同左」のように用いることができる。*{*daar/waar*} (...)naar 「同上」は不可。

フ. *Wêr fljocht er moarn* {**nei ta/hinne/*nei*}?—*Dêr fljocht er* {**nei ta/hinne/*nei*}. 「彼は明日どこへ飛びたつのですか」—「あそこへ飛びたつのです」

オ. *Waar vliegt hij morgen* {*naartoe/heen/*naar*}?—*Daar vliegt hij* {*naartoe/heen/*naar*}. 「同上」—「同上」

(3) 意味

前置詞句を支配する後置詞は、前置詞句が示す場所の意味に方向規定を加えたり、方向・場所・時間の意味を補強し、特定化したりする。

(a) 方向規定

[*foar...*] *del*] 「…の前を通り過ぎて」

Se gong hastich foar de ruten del. 「彼女は足早に窓の前を通り過ぎた」
 (Zanema 1984 : 165 変更)

この用例では *foar de ruten* 「窓の前」という場所を示す前置詞句に後置詞 *del* 「…を通り過ぎて」が動作の具体的な方向を規定している。

(b) 方向・場所・時間の意味の補強・特定化

それぞれについて例を示す。

① *[[nei...] ta]* 「…へ」

Hy rydt moarn nei Drachten ta. 「彼は明日ドラハテン (オ・Drachten ドラハテン) に行く」

この用例では *nei Drachten* 「ドラハテンへ」という前置詞句が示す方向の意味を後置詞 *ta* 「…へ」が補強している。この場合、

Hy rydt moarn nei Drachten (ta). 「同上」

のように意味的に重複する後置詞 *ta* はなくてもいいが、西フリジア語では *ta* を用いて名詞句を *nei...ta* のようにはさみこむ表現が好まれる。

☞ オランダ語では *naar...toe* よりも *naar...* が好まれることについては § 60 (2) (o) 参照。

② *[[foar...] oer]* 「…にたいして」

Wy steane posityf foar it útstel oer. 「私たちはその提案にたいして賛成の立場です」

この用例では *foar it útstel* 「その提案の前」という前置詞句が示す場所の意味を後置詞 *oer* 「…の向こうに、に向かって」が特定化し、全体として比喩的な意味になっている。

☞ オランダ語の *tegenover* 「…にたいして」、ドイツ語の *gegenüber* 「同左」は 1 語の前置詞または後置詞である。

③ *[[fan...] ôf]* 「…から」

Fan seis oere ôf is it resepsje. 「6 時から歓迎会があります」(Breuker 1992²: 83 変更)

この用例では *fan seis oere* 「6 時から」という前置詞句が示す時間の意味を後置詞 *ôf* 「…から」が補強している。*fan* にはさまざまな意味があり、*ôf* は *fan* の意味を明確にするはたらきをしているので、① *nei...ta* の場合とちがって、なくてはならない。

- ☞ オランダ語では *vanaf zes uur* 「6時から」のように1語の前置詞を用いる。ドイツ語では *ab sechs Uhr, von sechs Uhr an* 「同上」のように表現する。

(4) 語順

(a) ‘前置詞句＋後置詞’ (=前域)

‘前置詞句＋後置詞’は全体でひとつの文成分であり、前域に置くことができる。

Foar de ruten del gong se hastich. 「窓の前を彼女は足早に通り過ぎた」

Foar it útstel oer steane wy posityf. 「その提案にたいして私たちは賛成の立場です」

Nei Drachten ta rydt er moarn. 「ドラハテンに彼は明日行く」

(b) 前置詞句…後置詞

「話題化」や「かきまぜ」によって前置詞句を後置詞から分離して前域や中域に置き、後置詞を残留させることができる。

Foar de ruten gong se hastich del. 「同上」

Se gong foar de ruten hastich del. 「同上」

Foar it útstel steane wy posityf oer. 「同上」

Wy steane foar it útstel posityf oer. 「同上」

☞ 名詞句を支配する後置詞の場合も同様 (§ 62 (4)(b))。

一方、*nei...ta* 「…へ」を用いた次の用例ではあまり好まれない。前置詞句に強いアクセントを置けば、まったく不可能ではないが、それでも不自然に聞こえることが多い。

?*NEI DRACHTEN* rydt er moarn *ta*. 「同上」(大文字は強いアクセントがあることを示す)

?*Hy* rydt *NEI DRACHTEN* moarn *ta*. 「彼はドラハテンに明日行く」
これは *ta* 「…へ」がそれ自体として方向の意味を表わす力が弱く、離れた位置にあって、*nei* 「…へ」の意味をとくに補強するには不十分なためと考えら

れる。(3)(b)①で述べたように、nei Drachten (ta) のように ta を落とすことができるのもこのことと関係がある。

(c) 名詞句…[前置詞+後置詞]

前置詞句に含まれる名詞句を分離した位置に置き、前置詞と後置詞が隣接することには、可否に差がある。たとえば、nei と ta が隣接する場合にはつねに hinne を用いることは(2)(b)で述べた。

*Drachten rydt er moarn {*nei ta/hinne}*. 「同上」

foar...del 「…の前を通り過ぎて」についてもこの場合は不可能である。

**Dy ruten gong se hastich foar del*. 「その窓の前を彼女は足早に通り過ぎた」

ところが、foar...oer 「…にたいして」については可能である（前域に置かれた名詞句には強調のために定冠詞よりも指示代名詞をつけるほうが好ましい）。これはオランダ語の *tegenover* 「同上」やドイツ語の *gegenüber* 「同上」のように、[foar oer] 「同上」全体で名詞句を支配する1語の後置詞のようにはたらいっているためと考えられる。

Dat útstel steane wy posityf foar oer. 「同上」

つまり、[foar oer] が「…にたいして」という名詞句を支配する後置詞として「再分析」されているためと考えられる。

同様に、fan...ôf 「…から」についても、次例のように文字通り物理的な意味では不可能だが、

*Dy beam falle in protte blêden {*fan ôf/ôf}*. 「その木からはたくさん葉が落ちる」(← *Der falle in protte blêden fan dy beam ôf*. 「同上」)

(Hoekstra 1995: 100)

fan...ôfsjen 「…を見捨てる、あきらめる」のように ôfsjen 「見捨てる、あきらめる」という分離動詞を形成する場合には、「名詞句による前置詞の残留」 (§ 61 (6)) によって可能である。

Dy sike ko moatte wy fan ôfsjen. 「その病気の雌牛は私たちは見捨てざるを得ない」(Zantema 1984: 697)

オランダ語の *van iets afzien* 「同上」、ドイツ語の *von etwas absehen* 「同

上」を参照。

このことは上述の *foar...del* 「…の前を通り過ぎて」 に似た表現として、
by...lâns 「…に沿って」 についても同様である。

By de dyk lâns wie in fuotpaad. 「道に沿って歩道があった」 (Visser 1985 : 385)

この語は *bylâns* 「同上」 として名詞句を伴う後置詞としても用いる。辞書にも *bylâns* 「同上」 として記載されている (Zantema 1984 : 102)。

De Alvestêdetocht is in tocht fan sa'n 200 km oer iis de alve Fryske stêden bylâns. 「オルヴェステーデトホトとはフリースラントの12の町に沿って氷の上を約200キロメートル走る競技のことです」 (ULI'S, B 5 : 7 変更)

このように、‘名詞句…[前置詞+後置詞]’という語順の可否は、[前置詞+後置詞] という名詞句を支配する後置詞や [後置詞+動詞] という分離動詞の形成が意味的に無理なく可能であるか否かによる。

(d) *der*…[前置詞+後置詞]

前置詞句に含まれる名詞句に相当する部分が *der* の場合には、*der* を前域や中域に分離して前置詞と後置詞をともに残留させることができる。

Dêr gong se hastich foar del. 「その前を彼女は足早に通り過ぎた」

Se gong der hastich foar del. 「彼女は足早にその前を通り過ぎた」

Dêr steane wy posityf foar oer. 「それにたいして私たちは賛成の立場です」

Wy steane der posityf foar oer. 「私たちはそれにたいして賛成の立場です」

nei...ta 「…へ」 はこの場合にも隣接することができない ((2)(b))。

*Dêr rydt er moarn {*nei ta/hinne}.* 「そこに彼は明日行く」

*Hy rydt der moarn {*nei ta/hinne}.* 「彼は明日そこに行く」

(5) 種類と用例

前置詞句と後置詞の組み合わせには多くの種類が可能である。以下ではそ

のいくつかを示すにとどめる。

- (a) [[by...] del] 「…のそばを通り過ぎて, …に沿って, …の下へ」

Triennen rinne him *by de wangen del*. 「涙は彼の頬を伝って落ちる」
(ULI'S, B 5 : 9 変更)

Mei graasje kaam sy *by de trep del*. 「しとやかに彼女は階段を降りてきた」 (ULI'S, B 19 : 18 変更)

Ik kom jûn om healwei achten wol eefkes *by dy del*. 「私は今晚7時半に君のところにちょっと寄ります」 (Bangma 1993² : 22)

Wat er dien hat, is *der fier by del*. 「彼がやったことは見苦しい過失だ(=そこから遠く落ちる)」 (Zantema 1984 : 165)

- (b) [foar...] del] 「…の前を通り過ぎて」

Sy gong *foar de ruten del*. 「彼女は窓の前を通り過ぎた」 (Zantema 1984 : 165 変更)

- (c) [[oer...] hinne] 「…の上へ, …を越えて」

By Dronryp hawwe se it fiadukt al sawat klear, dat dan sil *dêr* ek in dyk *oerhinne*. 「ドロシリプ(オ・Dronrijp ドロンレイプ)では高架がほぼ完成した。したがって, その上に道が通ることにもなるだろう」 (ULI'S, B 11 : 14)

- (d) [[om...] hinne] 「…のまわりをめぐる, およそ…の頃に」

Ik sjoch ris *om my hinne*. 「私は自分のまわりを見渡してみる」 (ULI'S, B 6 : 8 変更)

Op 'e klaai kin men soms noch sjen dat de âlde doarpskearn heger leit as it lân *der omhinne*. 「クライ地方(フリースラント州西部)では古くからの村の中心地がまわりの土地よりも高い位置にあるのがまだ見られることがある」 (ULI'S, C 11 : 2 変更)

Om Krysttyd hinne begjint de kursus. 「クリスマス頃に講習は始まる」 (ULI'S, B 19 : 18 変更)

Om 1878 hinne gie dat gâns oars as hjoeddedei. 「1878年頃, それは今日とはまったく違っていた」 (ULI'S, C 20 : 2)

It kostet *om tweintich gûne hinne*. 「それはだいたい 20 ギルダーの値段だ」 (Zantema 1984 : 399 変更)

- (e) [[troch...] hinne] 「…を通りぬけて」

In flau sintsje kipet *troch de wolken hinne*. 「おぼろな太陽が雲の間から笑顔をのぞかせている」 (Bangma 1993² : 146 変更)

Yn elts doarp is *troch al dy jierren hinne* in hechte mienskip ûntstien. 「どの村にもそうした長年の間に緊密な共同体が成立した」 (ULFS, C 11 : 2 変更)

Hja hâlden it mei-inoar, (dwers) *troch alles hinne*. 「彼らは一致して何事にも負けずにそれを守りとおした」 (Zantema 1984 : 1076)

- (f) [[by...] yn] 「…の中へ」

It wie oft my in ammerfol kâld wetter *by de nekke yn* smiten waard. 「バケツ一杯の水が私の首元にかけられたようだった」

- (g) [[op...] yn] 「…の中へ」

It giet *op 'e stêd yn*. 「これから町の中に入っていきます」 (it は非人称代名詞) (Zantema 1984 : 435)

- (h) [[tusken...] yn] 「…の間の中へ」

Tsjipke kuiere *tusken heit en mem yn*. 「チイプケは父親と母親のあいだに入りこんだ」 (ULFS, A 18 : 15)

- (i) [[by...] lâns] 「…に沿って」

De beammen steane *by de wâlen lâns*. 「木々は塀に沿って立っている」 (ULFS, C 11 : 10)

Hy rint *by de skilderijen lâns*. 「彼は絵画に沿って歩いていく」 (ULFS, B 19 : 18)

In skot fan him giet mar krekt *by de peal lâns*. 「彼のシュートはゴールの柱のほんのすぐ脇にそれる」 (Bangma 1993² : 143)

Hy giet *der stil bylâns*. 「彼は黙っている (=黙ってそのそばを通り過ぎる)」 (ib. 102)

- (j) [[op...] nei] 「…を除いて」
Op 'e noas nei hat er in soad fan syn mem. 「鼻を除いて彼は父親から多くを受け継いでいる」(Visser 1985: 63 変更)
- (k) [[{after/achter}...] oan] 「…の後ろに続いて」
In hynder rint efter in ko oan. 「馬が雌牛の後を歩いている」(ULI'S, A 7: 15)
Der ride trije bussen achter inoar oan. 「あそこに 3 台バスが続いて (=たがいの後ろに続いて) 走っている」(ULI'S, C 18: 11 変更)
- (l) [[op...] oan] 「…のところへ」
Hy rydt op 'e tsjerke oan. 「彼は教会のところへ車で行く」(Bangma 1993: 180 変更)
- (m) [[tsjin...] oan] 「…に触れて, …に向かって, …にたいして」
In laam leit tsjin in skiep oan. 「小羊が(大人の)羊に寄りかかっている」(ULI'S, A 7: 19)
Hy tikket tsjin it byldsje oan. 「彼は絵をコツコツたたく」(ULI'S, B 19: 18 変更)
Syn lân leit tsjin mines oan. 「彼の土地は私の(土地)と接している」(Zantema 1874: 1088)
De frachtauto ried tsjin ús auto oan. 「そのトラックは私たちの車に衝突した」(ULI'S, A 18: 18 変更)
Syn heit snúfde der earst raar tsjin oan. 「彼の父親ははじめはそれにたいして快く思っていなかった」(ULI'S, C 11: 8)
De hiele middei hong er der tsjinoan en hie de moed net om it te sizzen. 「昼の間ずっと彼は躊躇し, それを言い出す勇気がなかった」(WFT 8 1991: 371)
- (n) [[foar...] oer] 「…の向かいに, …にたいして」
Hy siet altyd foar my oer. 「彼はいつも私の向かいにすわっていた」(ULI'S, B 19: 18)
Wy steane der wol posityf foar oer, wylst sy har twifels ha. 「私たち

はそれに賛成の立場だが、彼らは疑念を抱いている」(Bangma 1993²: 163 変更)

- (o) [[fan...] ôf] 「…から」

Mei gâns muoite kaam muoike *fan 't bêd ôf*. 「とても大儀そうに伯母はベッドからおりた」(ULI'S, B 8:15)

Se geane *fan skoalle ôf*. 「彼らは学校から帰る」(ULI'S, B 19:18 変更)

☞ (r) *nei skoalle ta* 「学校へ」

Fan hjir ôf kinst it noch better sjen. 「ここからなら君はそれがもっとよく見えます」(Breuker et al. 1992²: 83 変更)

Fan acht oere ôf is it resepsje. 「8時から歓迎会があります」(ib. 83 変更)

- (p) [[by...] op] 「…の上へ」

By in pealtsje klimt er *by de wâl op* en giet yn 'e hûs. 「杭のところで彼は塀をのぼって自分の家の中へ入る」(ULI'S, B 5:9)

- (q) [[yn...] op] 「(風など) に逆らって・向かって」

De bern fytsten yn 'e wyn *op*. 「子供たちは風に向かって自転車をこいだ」(ULI'S, B 19:18 変更)

☞ *tsjin 'e wyn 「風に向かって」とは言わない。逆の意味では *foar de wyn* 「風を受けて」と言う。

- (r) [[nei...] ta] 「…へ (方向)」

Se geane *nei skoalle ta*. 「彼らは学校へ行く」(ULI'S, B 19:18 変更)

☞ (o) *fan skoalle ôf* 「学校から」

Om seis oere gean ik *nei hûs ta*. 「6時に私は家路につく」

☞ *thús gean 「家路につく」は不可。一方, {thús/*nei hûs ta} komme 「帰宅する」となることに注意。オランダ語も同様。ドイツ語との相違に注意。

オ. {naar huis/*thuis} gaan 「家路につく」

{*naar huis/thuis} komen 「帰宅する」

ド. {nach Haus(e)/*zu Haus(e)} gehen 「同上」

{nach Haus(e)/*zu Haus(e)} kommen 「同上」

用法の詳細については (2)(b), (3)(b)①, § 50 (1)(b), § 60 (2)(o)参照。

- (s) [[oan...] ta] 「…のところのきわまで (おもに場所)」

場所の表現に用いることが多いが、そうでない場合もある。

Ik tel oan seis ta. 「私は6まで数える」 (Bosma-Banning 1981²: 7)

De kij sonken hast oan de knibbels ta yn 'e modder. 「牛たちはほとんどひぎまで泥の中に埋まってしまった」 (ULPS, C 10: 15 変更)

Hy reizge mei oan Sleat ta. 「彼はスレアト (オ. Sloten スローテン) までいっしょに旅をした」 (Visser 1985: 739 変更)

次の用例は時間を表わしている。

Ik bliuw hjir oan moandei ta. 「私はここに月曜日までいます」 (Visser 1985: 739)

Dêr is er oan syn dea ta bleaun te wenjen. 「そこで彼は亡くなるまで暮らした」 (Stienstra 1982: 47)

- (t) [[oant...] ta] 「…のときまで (おもに時間)」

時間の表現に用いることが多いが、そうでない場合もある。

Jûns moast ik wer komme en oant healwei achten ta arbeidzje. 「夕方になると私は戻ってきて7時半まで働かなくてはならなかった」 (ULPS, B 2: 17 変更)

fan 1939 oant 1945 ta 「1939年から1945年まで」

oant no ta 「今まで」

次の用例は場所を表わしている。

It famke sit oant har earen ta ûnder it gips. 「その女の子は耳までギプスをしている」 (ULPS, B 19: 18 変更)

☞ この用例については oan...ta を用いるべきだという判定もある。

元来, oant...ta は oan...ta と oant の混淆から生じた語形である。(s)の用例では oan syn dea ta 「(彼が) 亡くなるまで」のほかに oant syn dea 「同左」, oant syn dea ta 「同左」も可能であり, 用法に混同が見られる。

- (u) [[tusken...] troch] 「…の間に」
It liket my neat om *der tusken troch* wat te reizgjen. 「その間に少し旅行をするのは私は好まない」 (ULI'S, A 19 : 7 変更)
- (v) [[ûnder...] troch] 「…の下を通過して」
It famke koe net *ûnder de hage troch* krûpe. 「女の子は生け垣の下を這って通ることができなかった」 (Bangma 1993² : 108)
- (w) [[ta...] út] 「…の終わりまで」
Der waard *ta de nacht út* dûnse. 「夜を徹して踊りが続いた」 (Hoekstra 1991 : 62)
- (x) [[{after/achter}...] wei] 「…の後ろから」
Dy poes sprong *after de gerdinen wei*. 「その子猫はカーテンの後ろから飛びだした」
- (y) [[ûnder...] wei] 「…の下から」
Der kroep in kat *ûnder de tafel wei*. 「猫が机の下から這い出してきた」
- (z) [[út...] wei] 「…から」
Ut de keamer wei kinst it krekt sjen. 「部屋の中から君にはそれがよく見える」 (Breuker et al. 1992² : 83 変更)
Ut Ljouwert wei kin men mei de trein fjouwer kanten út komme. 「リャウエト (オ・Leeuwarden レーワルデン) からは列車で四方に行くことができる」 (ULI'S, C 18 : 7)
- ☞ 用法の詳細については § 50 (1)(b), § 60 (2)(o) 参照。
- ☞ 前置詞句を支配する後置詞はオランダ語にもあるが、西フリジア語のほうが豊富である。上記の用例に対応するオランダ語の用例を参照。
- i) フ. *Mei graasje kaam sy by de trep del*. 「しとやかに彼女は階段を降りてきた」 (ULI'S, B 19 : 18 変更)
オ. *Gracieu kwam zij de trap af*. 「同上」 (ib. 18 変更)
- ii) フ. *Om Krysttyd hinne* begjint de kursus. 「クリスマス頃に講習は始まる」 (ib. 18)
オ. *Omstreeks Kerstmis* begint de kursus. 「同上」 (ib. 18 変更)
- iii) フ. *Hy siet altyd foar my oer*. 「彼はいつも私の向かいにすわっていた」 (ib. 18 変更)

- オ. Hij zat altijd *tegenover mij*. 「同上」 (ib. 18 変更)
- iv) フ. Hy giet *fan skoalle ôf*. 「彼は学校から帰る」 (ib. 18 変更)
- オ. Hij gaat *van school*. 「同上」 (ib. 変更)
- v) フ. Hy giet *nei skoalle ta*. 「彼は学校へ行く」 (ib. 18 変更)
- オ. Hij gaat *naar school*. 「同上」 (ib. 18 変更)
- vi) フ. It famke sit *oant har earen ta ûnder it gips*. 「その女の子は耳までギプスをしている」 (ib. 18 変更)
- オ. Het meisje zit *tot haar oren* onder het gips. 「同上」 (ib. 18 変更)

参考文献

(前回までに掲載したものを除く)

Hoekstra, Jarich/Willem Visser 1996. “*De- en it-wurden yn it Frysk*”. *Us Wurk* 45. 55-78.

* 本稿は筆者の以下の論文に続く西フリジア語の文法構造の記述である。

「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」(北海道大学文学部紀要 44-1. 第 85 号. 1995. 37-81)

「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」(北海道大学文学部紀要 44-2. 第 86 号. 1995. 43-111)

「西フリジア語の文法構造—冠詞, 名詞, 形容詞—」(北海道大学文学部紀要 45-1. 第 88 号. 1996. 21-81)

「西フリジア語の文法構造—代名詞—」(北海道大学文学部紀要 45-2. 第 89 号. 1996. 79-176)

「西フリジア語の文法構造—数詞, 副詞, der—」(北海道大学文学部紀要 45-3. 第 90 号. 1997. 171-246)

「西フリジア語の文法構造—前置詞と後置詞 (1)—」(北海道大学文学部紀要 46-1. 第 91 号. 1997. 23-62)

記述上の問題点については筆者の次の論文を参照。

「西フリジア語文法記述の問題点」(北海道大学文学部紀要 44-3. 第 87 号. 1996. 41-107)

* 本稿は平成 9 年度文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。

研究課題: 「連続性概念による言語モデルの再構築 — ドイツ語学の立場から —」. 基盤研究(B)(2). 課題番号 08451101 (研究代表者 北海道大学言語文化部助教授 佐藤俊一)